

果樹園芸(2, 3年選択)・果樹(3年選択)

青梅総合高校の果樹園には、モモ、ナシ、ブドウ、ブルーベリー、キウイフルーツ、カキなどの落葉果樹とミカン、レモン、ユズなど柑橘類やビワといった常緑果樹、また学校から離れた小作農場にはクリがあります。このように教材に恵まれた環境で観察・実習を行い、それぞれの果樹の性質や病害虫などについての理論学習も行います。

それでは、実習風景や果樹園の様子を写真を交えて紹介します。

【3月下旬】



春休みのレベルアップゼミ（新年度受講生徒のうち希望者が参加）で **モモ** の摘蕾（てきらい）・・・蕾の段階で摘み取って花の数を減らす作業・・・をしているところです。 **モモ** はとても多くの花芽をつけるので、全て咲かせて実をならせてしまうと養分が不足して果実の質が落ち、樹も弱ってしまいます。

同じころ **ブドウ** は、ようやく冬の間の休眠から醒めて根の活動を再開したところです。

根が吸い上げ始めた水が **ブドウ** の枝の切り口からしみだしてきます。



【4月上旬】

モモの花



受粉・受精・結実



幼果の成長



満開のナシの樹



ナシの花



ナシの幼果



幼果の観察



ナシの幼果



モモの幼果



新学期が始まる頃に、まず モモ の花が満開になります。つづいて入学式の少し後には ナシ の花が満開を迎えます。虫たちが花の蜜を求めて花から花へと飛び回って花粉を運び、受精した雌しべの付け根には果実ができます (結実)。

【4月中旬】

ブルーベリーの花 枝を切り詰めて花の数を減らし → 結実（1か月後）



ブルーベリーは同じツツジ科のドウダンツツジに似た花を下向きに咲かせます。モモやナシより小さい花なので、花の数を減らす方法は1つ1つ摘み取るのではなく、枝を切り詰めることでまとめて減らします。受精した花はだんだん上向きに変わってゆき、1か月後には右上の写真のような果実になってきます。

【4月下旬】

ブドウの芽が育ち、今年の新しい枝（新梢）が伸びて葉を次々と開いてゆきます。

ブドウは、今年伸びた枝に花を咲かせて実を付けます。



デラウェアの新梢

【5月上旬】



ブドウ 新梢に花が付きます。



花の集まり（花穂）といひます。

【5月中旬】

種なしブドウを作る実習（品種：デラウェア）《第一回ジベレリン処理》



ジベレリン水溶液をカップに入れ



満開2週間前の蕾の段階の花穂を



ジベレリン水溶液に浸します。



目印のため着色してあり、本来は無色透明です。

【6月上旬】

種なしブドウづくり 《第二回ジベレリン処理》



晴天のジベレリン処理日和です。



前回まだ蕾だった花穂が小さな実の粒（顆粒）になっていました。



ブドウの房が長くなっていたので今回はカップではなくコップです。



なかにはコップの深さより長い房もあり、全部浸すのに苦労しました。

「ジベレリン」とは植物の体内で作られる「植物ホルモン」と呼ばれている植物の成長を調整する物質の一種です。「ジベレリン」の植物体内での作用はいくつもあります。それらの作用をブドウの花の生育段階によって使い分けて種なしブドウを作ります。

《第一回のジベレリン処理の目的》・・・ ブドウの種を作らせない。



第一回ジベレリン処理の1週間後の状態

《第二回のジベレリン処理の目的》

・・・・・・ 種がなくてもブドウの実（顆粒）を大きくする。



第二回ジベレリン処理の1週間後の状態

なぜ、そうなるのかという仕組みも講義で学びます。

【6月からは今年の収穫がはじまります】



ブルーベリーの収穫



ビワの収穫

【モモの6月上旬の様子】



極早生品種「ちよひめ」



早生品種「日川白鳳」

【ナシの6月上旬の様子】



ナシの摘果（品種「フリーゴールド二十世紀」）

1 学期末から夏休みにかけて「ブルーベリー」「モモ」「ナシ」「ブドウ」が次々と収穫期を迎えます。夏休みは、これらの果実をレベルアップゼミ（希望者が参加）の実習で収穫します。

【2学期に収穫期を迎える果樹】



レモンの花



ミカンの花



キウイフルーツの雌花



カキの雌花



カキの雄花



クリの雌花